

## 小学生の部

### 最優秀賞

神奈川県知事賞

#### 仲間がいるからがんばれる

伊勢原市立竹園小学校

六年 松田一真

ぼくには、両耳の難聴という病気があります。それで、今までとてもいやなことが人の倍くらいあると感じていました。補聴器を着けていると、周りのみんななよりも位が低くて劣っているように感じます。だから学校でも、友達の前でも悲しさを見せないように無理して明るくしていました。本当は、だれかにその気持ちを分かってほしかったです。

五年生の時に学年でキャンプに行きました。仲良しの友達と同じグループになって、泊まりました。その日の夜、グループの仲良し三人で、寝る前に色々な話をしました。その時に初めて友達に

「でも、ぼくは人とは少しちがって、補聴器もしているし、やっぱり何でも無理じゃないかって思うんだ。」

と、自分の気持ちを言ってみました。そうしたら、ぼくの友達の雅斗くんが、

「そんなことはないよ。ぼくは、一真が補聴器をしているのは、全然気にしてない。補聴器をしていることを気にしたこともないよ。だから気にするなよ。」

と言ってくれて、もう一人の友達の隼人くんが、

「そうだ。気にするな。」

と、かたをポンポンとたたいて言ってくれました。そして、『足が速い』、『ドッジボールが得意』など、ぼくの長所を二人でいっぱい言ってくれました。ぼくは、涙が出そうになりました。

「そうだ。人と比べなくても自分は自分でいいんだ。」

と、雅斗くんと隼人くんのおかげで、思えることができました。今までのなやみがスッキリしました。これからまた、いやなことがあったとしても、雅斗くんと隼人くんの言ったことを思い出してがんばれると思いました。

ぼくは、優しくて心強い友達がいてくれて、とてもうれしいと思っています。友達がいるから明るくいられるし、つらい時は、相談して、はげまされるんだと思いました。だからぼくも友達の支えになってあげたいと思います。思いやりと優しさをもって、みんなが幸せになれるように生きていこうと思います。